

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

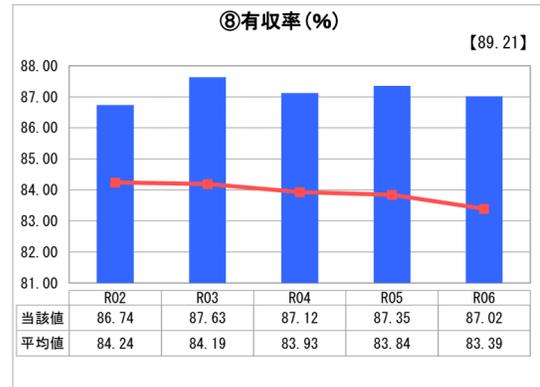
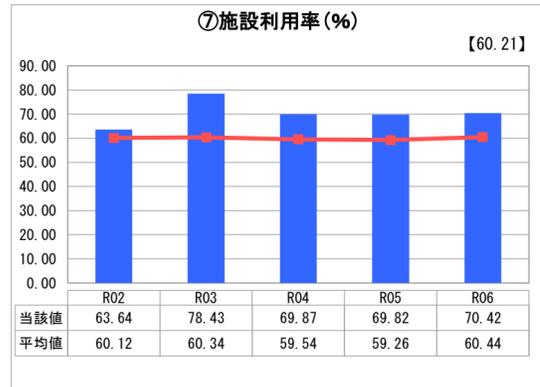
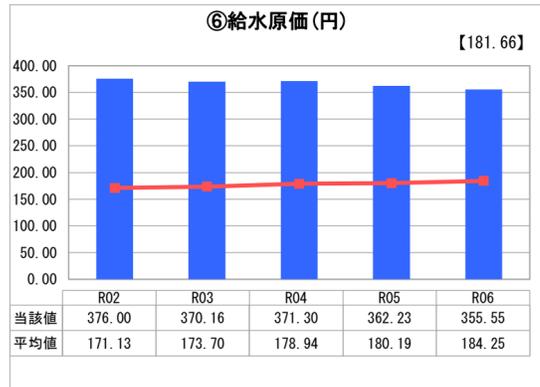
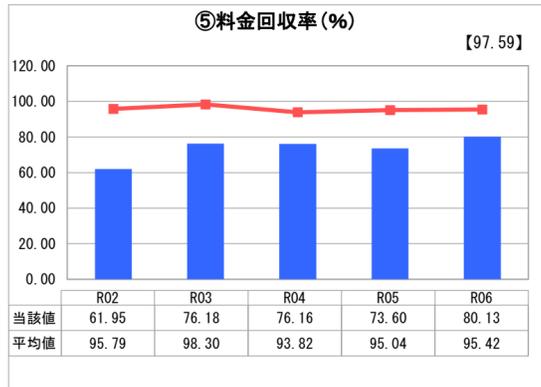
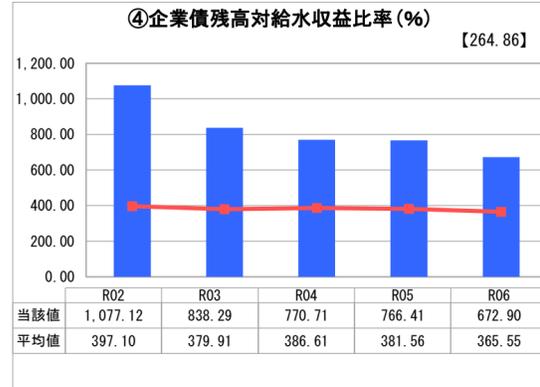
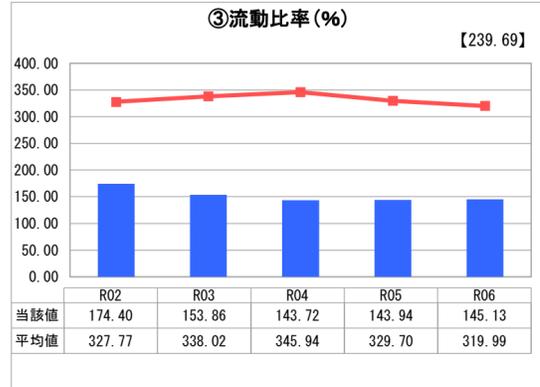
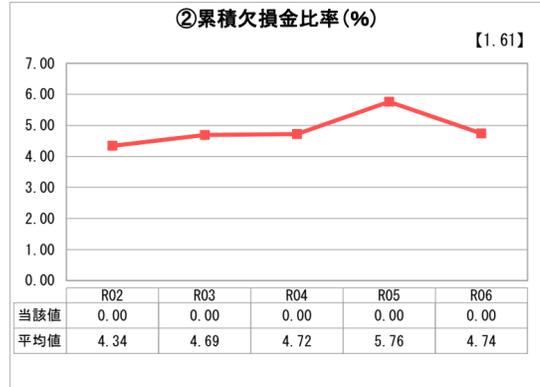
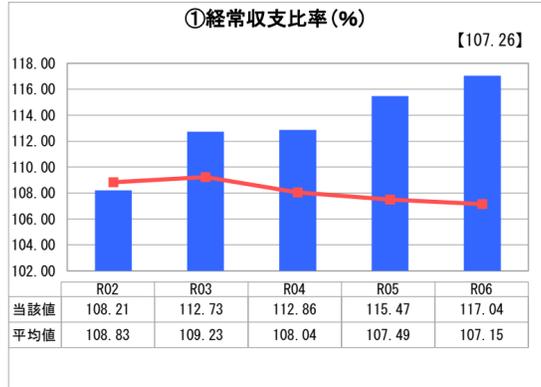
兵庫県 丹波篠山市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	63.10	99.92	4,763	

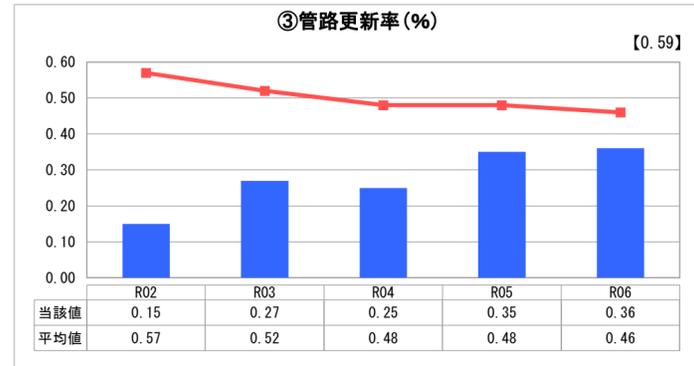
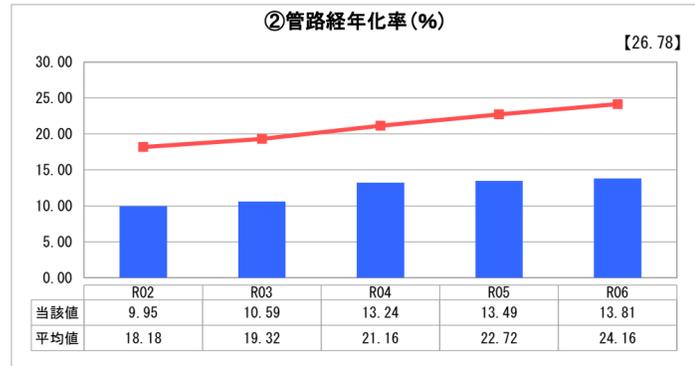
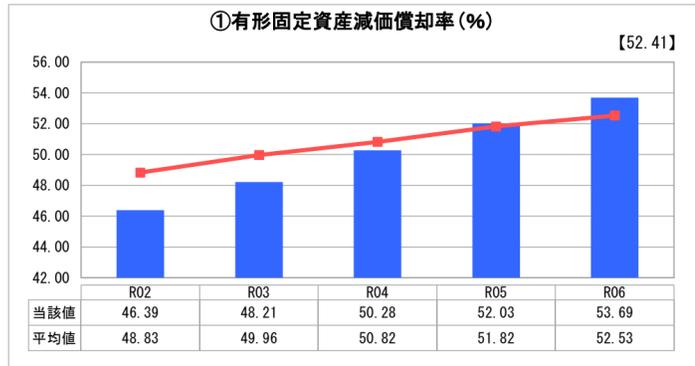
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
39,095	377.59	103.54
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
38,806	159.29	243.62

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
[ ]	令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

① 経常利益は給水収益と一般会計繰入金の総収益により黒字となっており、維持管理費や支払利息当等の費用を賄えています。  
 ② 平成24年度以降累積欠損金は解消されたものの、給水収益が減少傾向にある中で、更なる維持管理費等の経費抑制に努める必要があります。  
 ③ 類似団体の平均値よりも低いものの、短期的な債務に対する支払い能力は有しており、令和9年度以降は流動負債が減少する見込です。  
 ④ 水源開発や水道施設整備などの大型事業への投資により、企業債残高が類似団体の平均値と比べ過大になっています。しかしながら毎年減少しており、現在の料金収入とのバランスに留意しつつ、企業債の発行は、経営健全化の観点から適正な水準となるよう努めます。  
 ⑤ 給水収益だけで給水に係る費用を賄えず、操出基準に定める一般会計からの繰入金により収入不足分の補っています。  
 ⑥ 大型事業への投資による減価償却費や支払利息が費用の多くを占めていることなどから、給水原価が平均を上回っているため、維持管理費の更なる削減が必要です。  
 ⑦ 今後の水需要を見据えた施設の統廃合と配水区域の再編を行ってきたことで、類似団体の平均値を上回っています。  
 ⑧ 寒波の影響などにより、漏水発生件数が増えたため有収率は低下しましたが、類似団体の平均値を上回っています。

### 2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は上昇傾向であり、類似団体や全国平均値より高い数値となっていることから計画的な水道施設の更新を進めることが必要です。  
 ② 下水道事業の工事に合わせて老朽管を更新したことや、県水を導入した効果により管路は比較的新しい状態です。今後は更新時期を平準化して計画的な更新を行うことが必要です。  
 ③ 施設が比較的新しいものの、市域が広く、また、山間僻地も多いため、年々老朽化していく管路の更新について、無駄を省き更新時期の偏りを平準化した計画により更新を行うことが必要です。

## 全体総括

合併以降これまで「安心・安全・安定」した水道水の供給を目指して、水源や浄水場、配水施設の整備を進めてきました。  
 しかし、昨今の人口減少や水栓器具の性能向上による使用水量の減少は、給水収益の減少に直結し、また、水源開発や施設整備などの大型事業により減価償却費や支払利息などの負担が増加し、給水原価や企業債残高が他の市町村と比べ大きくなっています。加えて、職員の人員費増加や物価高騰により支出が増加しているため、水道事業を取り巻く環境は益々厳しくなっています。  
 令和5年度に策定した経営戦略を基に、水道事業に携わる人材の確保と育成に努め、また、施設を効率的に活用するなど資産の有効利用を図るとともに、経費を抑制し投資費用を平準化することで、将来に亘って安定した経営の実現を目指します。